



# ビオトープ・ニュース063

発行日 2014/03/02

発行：日本ビオトープ管理士会 徳島支部  
事務局：徳島市山城町東橋5-281 新弘測量設計株式会社  
事務局長：東條芳顕 TEL：088-622-5688

## ■ビオトープ・サロン マスメディアからの話題～生物多様性保全と認証制度～

年明けの5日の徳島新聞に目がとまりました。【環境配慮のパーム油を…生物多様性保全へ認証制】という見出しでした。かつて、世界的に話題となったオランウータンやボルネオの子ゾウの悲劇を思い起こしました。

そこで、今号は少々古い話題ではありますが、環境汚染防止や安全・安心が求められる中で、【人にも地球にもやさしい油】との触れ込みで利用が世界に広まり、【野生生物に危機を招いたパーム・オイル】を紹介します。（編集局）

### 【市民にできること…賢明な選択と無駄な消費を慎むこと! ?】



左のマークは、生物多様性保全への認証制度である【持続可能なパーム油の認証マーク】です。徳島新聞では、次のように紹介されていました。

「食品や洗剤に使われるパーム油は、気付かぬうちに暮らしに浸透している【見えない油】と呼ばれる。原料を生産する東南アジアで【生物多様性などに影響】を与えており、環境に配慮したパーム油を使おうとする動きが広がっている。中略、二大生産国のインドネシアとマレーシアでは、農園開発で熱帯雨林や泥炭林が失われ、野生生物に悪影響が出ていると【国際的に問題】となった。このため、

環境などに配慮して開発、生産しているアブラヤシ農園を応援してパーム油産業を変えていこうと、NGOをはじめ、企業や生産者が協力し【持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)】を2004年に設立した。そして、生態系に配慮したパーム油を使用したか、その生産に貢献した製品を普及させるため、マークをつけるなどの認証制度を設けた。しかし、WWFによると【日本では認証油への切り替えは海外に比べ出遅れて】おり『日本に流通しているパーム油の7%程度ではないか』と推察している。」…とのことです。

パーム・オイルは、様々な食品やスナック菓子をはじめ、洗剤、化粧品など、私たちが毎日使う【様々な商品に使用】されている植物油脂で、成分表に[植物油脂]とあるものの多くがパームオイルと言われています。

石油系洗剤による水質汚染が社会問題となる中、【環境にやさしい植物原料を使用した植物洗剤の先駆け】として、【日本企業の主力ブランド商品】「ヤシノミ洗剤」が1971年に誕生しました。パーム・オイルは【非常に安価】であることから需要が増加し、近年ではバイオ燃料の原料としても注目されています。しかし、【プランテーション拡大による熱帯雨林減少】など、現地マレーシアを中心に、あらゆる環境・社会問題を引き起こすことになりました。もはや、【パーム油=環境にやさしい・人にやさしい】と単なる一面だけで語る段階ではなくなってしまったのです。

国際連合食糧農業機関(FAO)によるとアブラヤシの収穫面積は、インドネシアでは1961年の【7万ha】から2012年には【609ha】に、マレーシアでも1961年の【4万ha】から2012年には【401万ha】に増加しているとのこと。この多くが熱帯雨林の伐採を伴っていることとされ、【野生生物の絶滅】や、【温室効果ガスの増加】など、の問題が深刻化しています。また、農薬による【土壌や水質の汚染】、さらには【地域住民の伝統的な土地利用の変化】など、社会問題も引き起こしています。このような深刻な事態を受け、農園や加工業者、販売店、銀行や商社、NGOなどが2004年に【持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)】を設立し、自然環境や地域社会への影響を少なくする取り組みがはじめられました。(エコシステム：日本生態系協会から引用)

きっかけは【2004年の夏】、テレビ番組に登場した一頭の象でした。一見すると元気なふつうの子象、しかし【子象の鼻にはナイロン製ロープ】が巻き付き、小さい輪となって強く鼻を締め付けています。もうどれくらい経っているのでしょうか。子象の成長にともなってそのロープはさらに深く食い込んで行くことになります。このロープは、【農園を荒らす象の駆除に仕掛けた罠】でしたが、農園は、【元は象のビオトープでありコリドー(生態的回廊)】でした。

私たちの安全で安心な暮らしが、知らないうちに熱帯雨林を破壊していたのです。日本の消費によって悪影響を受けているのは、【世界中で1,208種】にもなることが明らかにされています。このように、世界の生物多様性の劣化には、多くの資源や商品を【輸入している私たち先進国の消費】のあり方が深く関わっています。【安さだけを求めたり、必要以上に浪費したりすることは、世界の生物多様性の劣化を更に加速させることにつながります。】

どこか似ていませんか?…イノシシ・サル・ニホンジカ、ツキノワグマ。場所も、原因も、影響も少々異なりますが、【野生生物と人間の摩擦】という点では同じです。また、【自然エネルギー開発も諸刃の剣】と言えます。生産と消費、土地利用のあり方を総合的に考える必要がありますね、私たちも。



■ビオトープ・サロン ～全国学校・園庭ビオトープコンクール2013の結果報告～

去る2月9日、全国学校・園庭ビオトープコンクール2013の授賞式が東京で開催されました。このコンクールは1999年に創設、隔年で開催され今回は第8回目となります。残念ながら、今回は徳島県下の学校・園からの応募はありませんでした。しかし、新たに創設された支援部門では、**徳島県から2団体が受賞し表彰**されました。これを機に、次回の**2015年には徳島県下の学校・園からの応募を期待し**、このコンクールを紹介します。（編集局）

【全国各地で取り組まれている学校・園庭ビオトープはマルチ教材】

■現代社会が求める学校・園庭ビオトープの5つの魅力

様々な教育や教科の生きた教材、**マルチ教材**と言われる「学校・園庭ビオトープ」の魅力は、①**豊かな感性**を育てる、②**課題発見・解決力**を育てる、③**生物多様性**を学ぶ、④**異年齢交流**を促す、⑤**地域の輪**を広げる、などです。

■全国学校・園庭ビオトープコンクールについて（全国学校・園庭ビオトープコンクール2013 募集要項より要約）

1. 上位5賞（モデルとなる優れた取り組みを行うものを表彰）
  - (1) 文部科学大臣賞……特に**体験活動や学習活動**の内容・成果で秀でているものを表彰。
  - (2) 環境大臣賞……特に野生の生きもののすむ「**ビオトープ**」の**質**が秀でているものを表彰。
  - (3) 国土交通大臣賞……特に**人と自然共存するまちづくり**につながる観点で秀でているものを表彰。
  - (4) ドイツ大使館賞……学校・園庭ビオトープを題材に**個性的な学習・体験活動**を行っているものを表彰。
  - (5) (公財)日本生態系協会会長賞……特に**地域とのパートナーシップ**の観点で秀でているものを表彰します。
2. (公財)日本生態系協会賞……次回以降に「**上位5賞**」の候補となり得る優れた取り組みを行うものを表彰。
3. 学校・園庭ビオトープ奨励賞……**優れた取り組み**を讃えて表彰。

■過去の徳島県内の受賞校の紹介（各報告書(公財)日本生態系協会の冊子より抜粋）

1. 石井町立石井小学校：(公財)日本生態系協会賞 2011年（全142校・園が応募）
2. 海陽町立穴喰中学校：文部科学大臣賞 2007年（全153校・園が応募）
3. 穴喰町立穴喰中学校：学校ビオトープ優秀賞 2005年（全103校が応募）
4. 徳島県立阿波農業高等学校：学校ビオトープ奨励賞 2005年（全103校が応募）
5. 徳島市立加茂南小学校：学校ビオトープ奨励賞 2003年（全74校が応募）



■2013 支援部門の受賞団体（全国学校・園庭ビオトープコンクール2013 結果速報より抜粋）

今回のコンクールから新たに創設、学校・園庭ビオトープの支援モデルとなる優れた取り組みを表彰するものです。

1. 日本生態系協会会長賞……環境アニメイティッドやお（大阪府）
2. 学校・園庭ビオトープ元気賞……①(公財)三菱UFJ環境財団（東京都）／②(特非)グラウンドワーク三島（静岡県）／④(特非)すいた環境学習協会（大阪府）／⑤**徳島県県民環境部環境首都課自然環境室（徳島県）**／⑥**ビオトープ気延の里（徳島県）**

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう！

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより **無断転載禁止**：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。（編集局）

【生態学の択一問題：正答と解説は次号で紹介】

問63：生物分布の境界線の一つである「ブラキストン線」について述べたものはどれですか。

1. 沖縄本島と奄美諸島の間に引かれた線で、南方系の蝶類はこの線を北限にしているものが少なくない。
2. 奄美諸島と屋久島の間に引かれた線で、この線を境に北は旧北区、南は東洋区に分かれ、多くの動物がこの線を境として分布を異にしている。
3. 九州と本州の間の関門海峡に引かれた線で、主として樹木種の分布の違いから引かれた。
4. 本州と北海道の間に引かれた線で、ツキノワグマの北限、ヒグマの南限となっている。
5. 北海道とサハリンの間に引かれた線で、両生類、爬虫類などの分布の違いから引かれた。

■前号062の解説

周辺に地域の自然が残る住宅地のビオトープガーデンの設計・監理において、特に配慮すべき事項は、①庭の骨格となる植栽木は、在来種を基本として**同じ流域で生産されている苗木**を使う。②原則として**外来種の導入**は避け、周辺の**ビオトープネットワーク**によって自然定着する動植物を基本に設計する。③敷地内から発生する落葉落枝や刈草などの有機物は、堆肥化して家庭菜園や草花に還元し循環させる。④敷地内の工事で発生する石や礫は、両生類・爬虫類の隠れ家となるよう**エコスタック**として活用する。⑤家庭菜園や花壇では、化学肥料と農薬を使用せず、定着した生物の食う食われる関係で成り立つ**食物連鎖**を形成する。⑥灌水には、雨水を貯留して使用するなどして、できるだけ**環境負荷を軽減**する。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/>（公益財団法人 日本生態系協会HP）

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。 ふるってご参加ください！ 編集局  
【E-mail : kanv@nifty.com URL : <http://biotopetokushima.yu-yake.com>】